

未来予測

タッチパネルが空中に浮く未来

未来のタッチパネルは空中に浮かんでいて、指で接触する必要すら無くなる。SF 映画のような技術が現実になり、既に実際にデモンストレーションをいくつかの施設で体験できることをご存じだろうか。フォトブック制作などで知られるアスカネットが、2011 年から開発を進めている「ASKA3D」がそれだ。一言でいえば、映像を表示したディスプレイが空中に浮かび上がり、“タッチ”できてしまう技術だ。ホログラフィーとの違いは、映像を人間が指で触れ



て操作できる点だ。決済の現場では、券売機や ATM など何らかの機器を消費者が操作しなければならないシーンは多々ある。こうした場面のコンタクトレス（接触減）化に大きく寄与する技術なのである。

コロナ禍を受けて、店舗のコンタクトレス化に役立つとみて導入を検討している企業が増えている。

アスカネットは現在、硝子板に加えて、樹脂を使った廉価版のパネルも開発する。空中ディスプレイが身近になる日は近そうだ。 一日経トレンドィ 2002.10月号

中国の人気ティー専門店が大阪に上陸

コロナ禍で人影もまばらになった大阪・道頓堀の目抜き通りに 2020 年 7 月 4 日、中国深圳発のティードリンクブランド「奈雪の茶」の日本 1 号店が開業した。高品質な茶葉とフルーツを掛け合わせたフルーツティーという新たなジャンルを開拓したブランドだ。SNS への女性客の投稿が集客につながり、オープン初日は約 600 人が来店。以降、週末はテークアウトを中心に行列ができるほどの人気ぶりだ。「20～30 代の女性にお茶文化の継承と新たなライフスタイルを提案し、お茶の魅力を発信していきたい」と、運営を手掛ける中国の品道日本法人の黄華文副社長は話す。一日経トレンドィ 2020.10月号



柔らかい車体、新研究分野に

…… 持ち運べる移動手段「ポイモ」……

家から駅、駅から目的地など「ちょっと歩くな」と感じる距離を移動する時、折りたたみ傘のように使いたい時だけかばんから取り出して使う乗り物。そんな夢みたいな話が実現しつつある。メルカリの研究開発組織「メルカリ R4D」と東京大学が共同で開発する「Poimo（ポイモ）」だ。「Portable（持ち運びできる）」と「Inflatable（膨らませることができる）」、「Mobility（移動手段）」の頭文字を取ったポイモは「軽くて柔らかくて持ち運びができるモビリティ」というコンセプトのもとにつくられた。風船のように中に空気を入れて使う。電動ポンプを使えば 1 分ほどで膨らむ。車体部の重量は2kg強と非常に軽い。手持ちのコントローラーでスピードを調節し、ハンドルを使って進む向きを操作する。最高速度は10km/hほど。緩やかな坂道なら登ることができる。座席は風船のような弾力で乗り心地はいい。1 回の充電で1時間ほど走行可能だ。

硬いタイヤやモーターを柔らかい車体にどうとりつけるか。また、タイヤの位置、車輪の径・太さをどうすべ



きなのかといった設計手法が全くわからないところから研究がスタートした。手探り状態で「ソフトモビリティ」という新しい研究分野を切り開いているのだ。

電気自動車の進化や自動運転技術の向上によって、大きく変わりつつあるモビリティ業界。そのなかでソフトモビリティという研究分野は始まったばかり。ポイモを皮切りに研究がより研ぎ澄まされていき、私たちの想像を超えた新しい乗り物が生まれてくるかもしれない。

一日経トレンドィ 2020.10月号